

企業が求める『グローバル人材』とは

技術は世界共通。情熱と技術があれば、なんだってつくれる。

メーカーを筆頭に多くの企業がグローバル戦略を積極化し、海外マーケットに対応できる『グローバル人材』の採用を強化している。ひとくちにグローバル人材といっても、具体的にはどのような人材が求められているのか。グローバル戦略を強化している東芝の人事部人材採用センター 林健太氏から同社が求めるグローバル人材とその背景について話を聞いた。

グローバル戦略を加速しなければ、企業の成長は望めない

これまで日本の「ものづくり」は高い技術力を背景に、世界市場において非常に大きな存在感を示してきました。特に品質面において「Made in Japan」は、極めて高い優位性を誇っていました。しかし、近年では中国をはじめとしたBRICsや韓国など新興国の台頭が著しく、価格だけでなく品質面でも優れた製品を生み出しています。日本企業はそういった国々の企業と戦い、勝ち残っていくことが求められているのです。さらに国内では少子高齢化で人口は減少に転じており、これまでのような成長は期待できません。それゆえ、当社グループを含めた多くの企業が海外に目を向け、人材のグローバル化をスピーディーに推進しています。

当社グループでも、経営方針に『グローバルトップへの挑戦』と掲げており、2011年度の売上高6兆1003億円のうち海外売上比率は約55%でしたが、2014年度には65%にまで引き上げ、7兆8000億円の売り上げ目標を達成すべく邁進しているところです。

東芝というと家電製品やパソコンを思い浮かべる読者の方が多いかもしれませんが、もっとも売上比率が大きいのは社会インフラ事業です。電力エネルギーの安定的な供給を行うために、火力・水力・原子力発電システムに加え、自然エネルギーを利用した水力・太陽光・地熱・風力などの発電システムを提供しています。また、作った電気を家庭や商業施設などに届ける

ための送変電システムや、エネルギーを無駄なく効率的に蓄える二次電池など様々な事業を行っています。

エネルギーの供給だけでなく、交通システムやソリューション・自動化機器、環境システム、またそれらを街や地域単位で効率的に管理するために、クラウドコンピューティングなどのITインフラを活用したスマートコミュニケーション事業も積極的に推進しています。

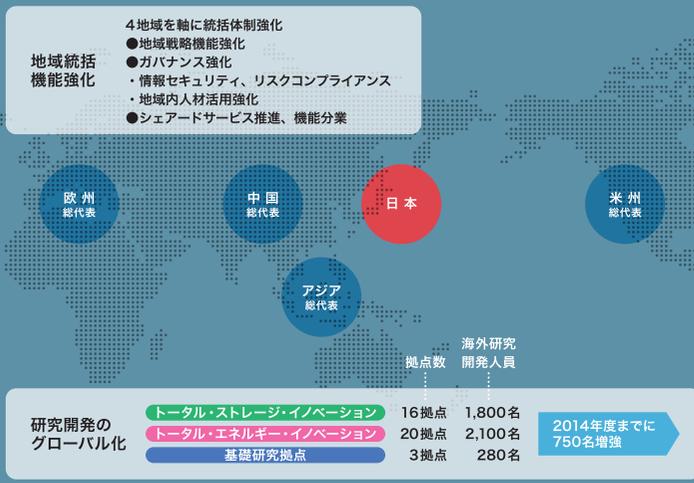
多様性のある企業が、世界で受け入れられる商品を生み出せる

これまでは日本国内向けに性能・品質の高い商品・サービスを作れば、海外でも一定の評価を得られました。しかし近年では、機能的に大きな差をつけにくい商品・サービスでは、低価格を武器にした新興国の企業に勝つことは難しい。それゆえ、これからは各国の現地ニーズにより即した製品を生み出していくことが求められています。

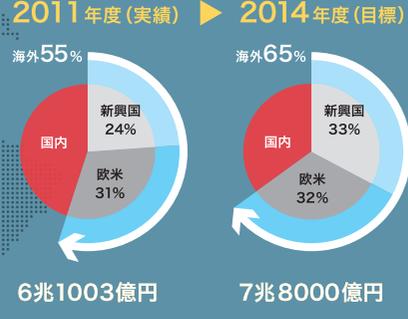
当社グループが近年力を入れているのは、各地域の特性に配慮した『ローカルフィット』商品・サービスの創出です。東南アジアで大きなシェアを獲得している「Power TV（パワーテレビ）シリーズ」がローカルフィット商品の具体例として挙げられます。Power TVは非常用バッテリーを搭載することにより電力供給が不安定な地域でも安定的なテレビの視聴を可能とした製品で、現地の電波状況を考慮し、受信感度の強いアンテナを内蔵しています。地域のニーズを把握し、それに応えることで現地のマーケットから大きな支持を得ています。

世界で受け入れられる商品・サービスを生み出すた

【地域統括強化と研究開発のグローバル化を加速させる東芝】



【売上高の海外比率引き上げを目指す】



「グローバルに活躍したい」と考えている学生にアドバイスを送るとすれば、技術や市場、社会構造が変化しても陳腐化しない能力を身につけておくことです。例えば、新しい状況を自分の頭で理解し、あらゆる問題を解決する能力といえるでしょう。学生時代はいろんなことに興味を持って主体的、情熱的に取り組んでほしいです。海外体験があるに越したことはないのですが、それ以外でもサークル、バイトなど全力で取り組んだ経験があればいいですね。ただ、理系学生に一番取り組んでほしいのはやはり学業です。専攻分野

グローバルに活躍するためには、単に現地の言葉を話せる語学力だけでは十分とはいえないでしょう。性別、年齢、国籍、障がいの有無といった違いに加え、性格、価値観、経験といった深層的な部分での違いや特性も含めた多様性を受け入れる能力が必要だと思えます。また、どのような困難な場面に遭遇しても立ち向かっていく精神的な強さや、タフなネゴシエーション能力に加え、物事をロジカルにとらえ、発信できる力も必須といえるでしょう。

グローバル人材に求められるのは語学力のみではない。グローバルに活躍するためには、単に現地の言葉を話せる語学力だけでは十分とはいえないでしょう。性別、年齢、国籍、障がいの有無といった違いに加え、性格、価値観、経験といった深層的な部分での違いや特性も含めた多様性を受け入れる能力が必要だと思えます。また、どのような困難な場面に遭遇しても立ち向かっていく精神的な強さや、タフなネゴシエーション能力に加え、物事をロジカルにとらえ、発信できる力も必須といえるでしょう。



Profile
株式会社東芝
人事部 人材採用センター
林 健太 (はやし・けんた)

「グローバルに活躍したい」と考えている学生にアドバイスを送るとすれば、技術や市場、社会構造が変化しても陳腐化しない能力を身につけておくことです。例えば、新しい状況を自分の頭で理解し、あらゆる問題を解決する能力といえるでしょう。学生時代はいろんなことに興味を持って主体的、情熱的に取り組んでほしいです。海外体験があるに越したことはないのですが、それ以外でもサークル、バイトなど全力で取り組んだ経験があればいいですね。ただ、理系学生に一番取り組んでほしいのはやはり学業です。専攻分野

グローバルビジネスの醍醐味は、その影響力の大きさにあるといえるでしょう。特に新興国において、私たちのような会社が現地に与えられる影響は大きいと思います。その村に初めて発電所ができて電気が通ったり、鉄道ができたりと、「人々の暮らしを豊かにする」という経験は、非常に大きなやりがいがあります。国ごとに言葉は違いますが、技術は世界共通。「情熱と技術があれば、なんだってつくれる」という気概を持って、皆さんにはぜひ世界を舞台に活躍してほしいですね。